

2024年3月期第2四半期 決算説明資料

2023年11月2日（木）



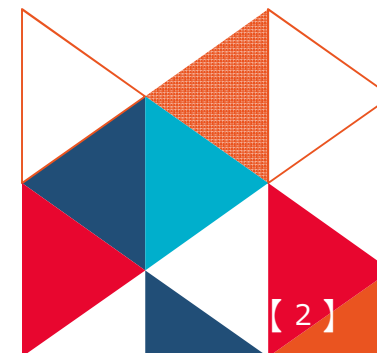
- 1 会社概要
- 2 2024年3月期 第2四半期連結決算概況
- 3 2024年3月期 業績予想
- 4 中期経営計画
- 5 appendix



1 会社概要



愛知時計電機株式会社



1. 会社概要

会社概要



会社名	愛知時計電機株式会社
創立	1898年（明治31年）7月 <創立125年>
代表取締役社長	國島 賢治
所在地	名古屋市熱田区千年一丁目2番70号
資本金	32億18百万円
従業員数	連結 1,772名（単体 1,223名）（2023年9月末現在）
拠点	国内 支店・営業所 23拠点 / 工場 7拠点 海外 2拠点
連結子会社	5社（国内3社、海外2社）
事業内容	ガスメーター、水道メーター、計測機器及び計測システムの 開発・製造・販売

1. 会社概要

事業の構成（売上高ベース）

ガス関連機器



47.4%
237億円
(2023年3月期)



- ガスメーター
(都市ガス用・L Pガス用)
- クラウドサービス、圧力機器

主要顧客

都市ガス会社
L Pガス会社

水道関連機器



34.1%
170億円
(2023年3月期)



- 水道メーター
- 積算熱量計、検針システム

主要顧客

水道事業体
建築設備会社
管理会社

民需センサー・システム



5.3%
26億円
(2023年3月期)



- 超音波流量計
- 小型流量センサー

主要顧客

工場
産業用・医療用
装置メーカー

計装



13.1%
65億円
(2023年3月期)



- 電磁流量計
- 水位計
- 監視・制御システム
※施工・メンテナンス含む

主要顧客

官公庁
(上下水道施設、
農業用水施設など)



2 2024年3月期 第2四半期連結決算概況



2. 2024年3月期第2四半期連結決算概況

業績サマリー



増収増益、売上・利益ともに第2四半期最高を更新

- ◆ 国内外の販売好調により4.9%の増収
- ◆ 増収効果および売上製品構成の影響などにより、売上総利益率が上昇し14.8%の増益
- ◆ 販管費が前年並みに抑えられ、営業利益以降も増益

(百万円)

	2023/3 2Q	2024/3 2Q		
		実績	対前年同期	
			増減	%
売上高	23,602	24,751	1,149	4.9%
売上原価	18,405	18,783	378	2.1%
売上総利益 (売上総利益率)	5,197 (22.0%)	5,968 (24.1%)	770	14.8%
販管費	4,180	4,157	△22	△0.5%
営業利益 (営業利益率)	1,017 (4.3%)	1,810 (7.3%)	793	78.0%
経常利益	1,479	2,195	716	48.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,077	1,637	559	52.0%

2. 2024年3月期第2四半期連結決算概況

事業部門別売上高

主力のガス、水道および高採算の民需SSが増収

- ◆ IoT関連機器や都市ガスメーターの増加によりガス関連機器は5.2%増収
 - ◆ 官公庁・民間市場ともに堅調に推移し水道関連機器は6.2%増収
 - ◆ 電子部品不足の影響が徐々に緩和され、民需センサー・システムは20.3%増収
 - ◆ 工期延長の影響で前年同期は完工物件が多かったことから、計装は15.7%減収
- (百万円)

	2023/3 2Q	2024/3 2Q		
		実績	対前年同期	
			増減	%
計測器関連事業				
ガス関連機器	11,936	12,555	618	5.2%
水道関連機器	8,805	9,349	543	6.2%
民需センサー・システム	1,212	1,458	246	20.3%
計装	1,613	1,359	△253	△15.7%
計測器関連事業合計	23,568	24,722	1,154	4.9%
特機関連事業				
特機	34	29	△5	△16.1%
合計	23,602	24,751	1,149	4.9%

国内外売上高

輸出はアジアが好調、海外売上高は7.0%増

- ◆ 日本国内は各分野の取替需要やIoT関連機器を中心に堅調に推移し4.7%増収
- ◆ アジアは中国向けの超音波ガスメーターおよび中国・アセアン向けの電磁式水道メーターが増加し16.7%増収
- ◆ 欧米は北米向け流量センサーなどが減少し9.8%減収

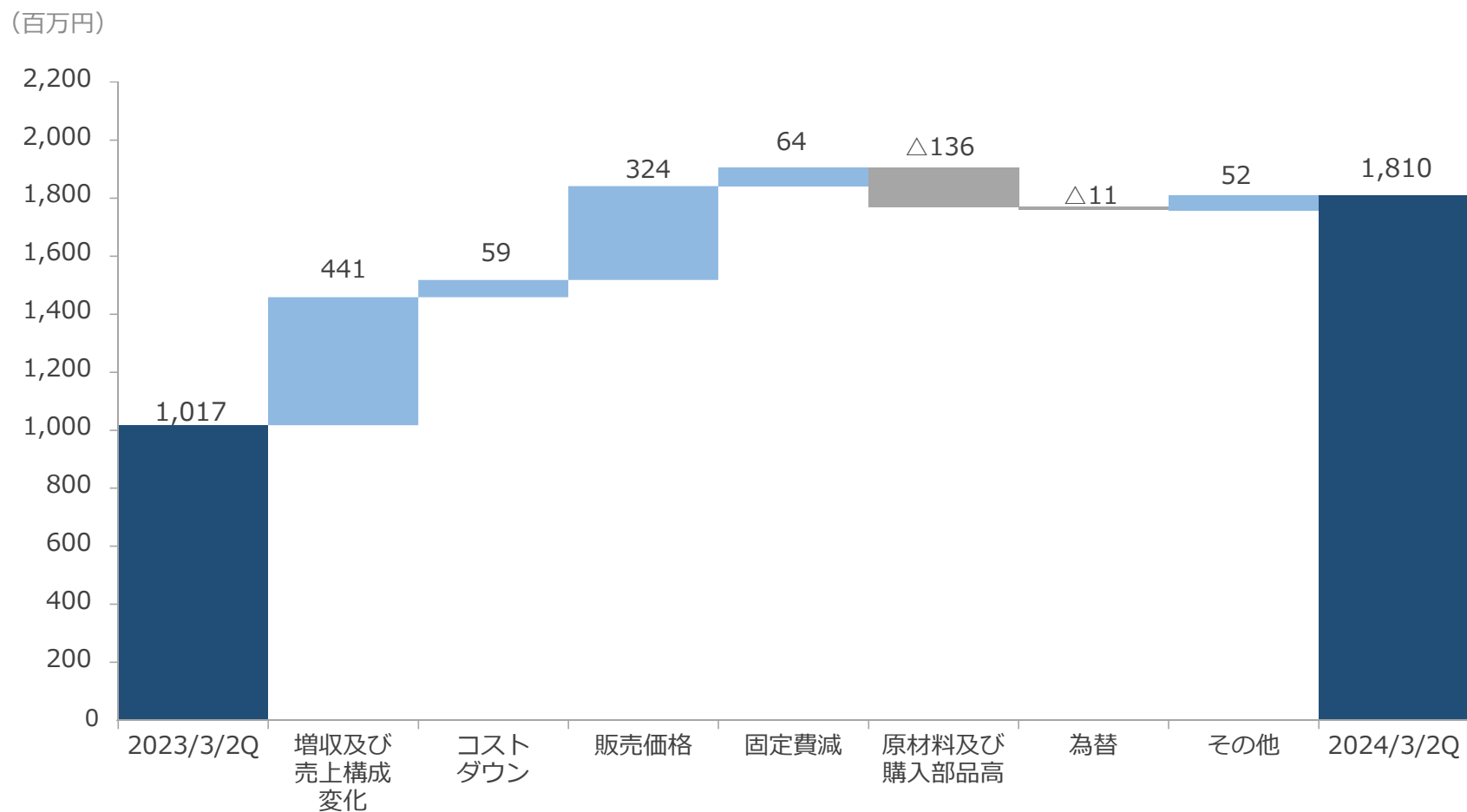
(百万円)

	2023/3 2Q	2024/3 2Q		
		実績	対前年同期	
			増減	%
国内	21,579	22,586	1,006	4.7%
海外	2,023	2,165	142	7.0%
アジア	1,283	1,498	214	16.7%
欧米	739	667	△72	△9.8%

2. 2024年3月期第2四半期連結決算概況

営業利益増減要因分析

【営業利益増減要因】



2. 2024年3月期第2四半期連結決算概況

貸借対照表（資産）

- ◆ 資産合計は1億1千1百万円の増加
- ◆ 売掛金の回収などにより流動資産が10億5千9百万円減少
- ◆ 株価上昇に伴う投資有価証券の評価増などにより固定資産が11億7千1百万円増加

(百万円)

	2023/3	2024/3 2Q	
		実績	対前期末
			増減
流動資産	36,803	35,743	△1,059
固定資産	19,515	20,686	1,171
有形固定資産	7,860	8,112	252
無形固定資産	72	60	△12
投資その他の資産	11,582	12,513	931
資産合計	56,318	56,430	111

2. 2024年3月期第2四半期連結決算概況

貸借対照表（負債・純資産）



- ◆買掛金の減少などにより流動負債が21億4千7百万円減少
- ◆利益剰余金、その他有価証券評価差額金などの増加により純資産は23億6千2百万円増加

(百万円)

	2023/3	2024/3 2Q	
		実績	対前期末
			増減
流動負債	12,131	9,983	△2,147
固定負債	5,788	5,684	△104
負債合計	17,919	15,668	△2,251
株主資本	35,463	36,675	1,211
資本金	3,218	3,218	—
資本剰余金	311	311	—
利益剰余金	32,132	33,247	1,115
自己株式	△198	△102	96
その他包括利益累計額	2,925	4,079	1,153
新株予約権	9	7	△2
純資産合計	38,399	40,762	2,362
負債純資産合計	56,318	56,430	111

2. 2024年3月期第2四半期連結決算概況

キャッシュ・フロー



◆フリーキャッシュフローは△5億2千5百万円

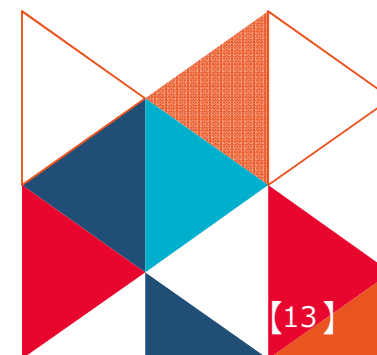
◆現金及び現金同等物は21億5千万円減少

(百万円)

	2023/3 2Q	2024/3 2Q		主な増減要因
		実績	対前年同期	
			増減	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,338	13	△1,324	棚卸資産の増加 △975 仕入債務の減少 △1,452
投資活動によるキャッシュ・フロー	△301	△539	△238	有形固定資産の取得による 支出増 △245
財務活動によるキャッシュ・フロー	△107	△597	△490	配当金の支払による支出増 △120
現金及び現金同等物に係る換算差額	350	253	△96	
現金及び現金同等物の増減額	1,280	△869	△2,150	
現金及び現金同等物の期首残高	8,277	8,847	570	
現金及び現金同等物の期末残高	9,557	7,977	△1,580	



3 2024年3月期 業績予想



第2四半期の業績を踏まえ、売上・利益とも上方修正

- ◆売上高は+8千万円、営業利益は+4億3千万円、当初予想を上回る見込み
- ◆売上・利益ともに2期連続で過去最高を目指す

(百万円)

	2023/3	2024/3		
		予想	対前期	
			増減	%
売上高	50,160	51,720	1,559	3.1%
営業利益 (営業利益率)	3,980 (7.9%)	4,030 (7.8%)	49	1.2%
経常利益	4,654	4,740	86	1.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,458	3,470	11	0.3%

3. 2024年3月期業績予想

事業部門別売上高予想

計装分野を除き、引き続き堅調な需要を見込む

- ◆ ガス関連機器は、IoT関連機器の伸長により3.3%増収を見込む
- ◆ 水道関連機器は、国内外の販売堅調により3.8%増収を見込む
- ◆ 民需センサー・システムは、部品調達難の解消に伴い14.5%増収を見込む
- ◆ 計装は、受注減および来期への工期延長により3.7%減収を見込む

(百万円)

	2023/3	2024/3		
		予想	対前年同期	
			増減	%
計測器関連事業				
ガス関連機器	23,780	24,570	789	3.3%
水道関連機器	17,084	17,730	645	3.8%
民需センサー・システム	2,654	3,040	385	14.5%
計装	6,573	6,330	△243	△3.7%
計測器関連事業合計	50,092	51,670	1,577	3.1%
特機関連事業				
特機	67	50	△17	△26.5%
合計	50,160	51,720	1,559	3.1%

3. 2024年3月期業績予想

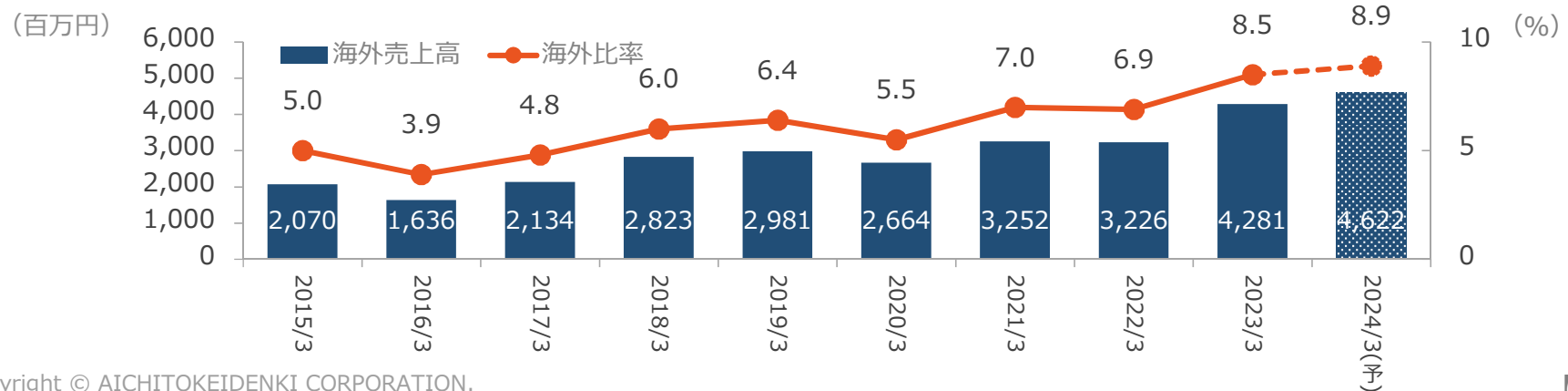
国内外売上高予想

輸出はアジアが好調、海外売上は7.9%増の見込み

- ◆ アジアは中国向け都市ガスメーターの増加などにより15.7%の増収を見込む
- ◆ 欧米は北米向け流量センサーの減少などにより△5.3%の減収を見込む

(百万円)

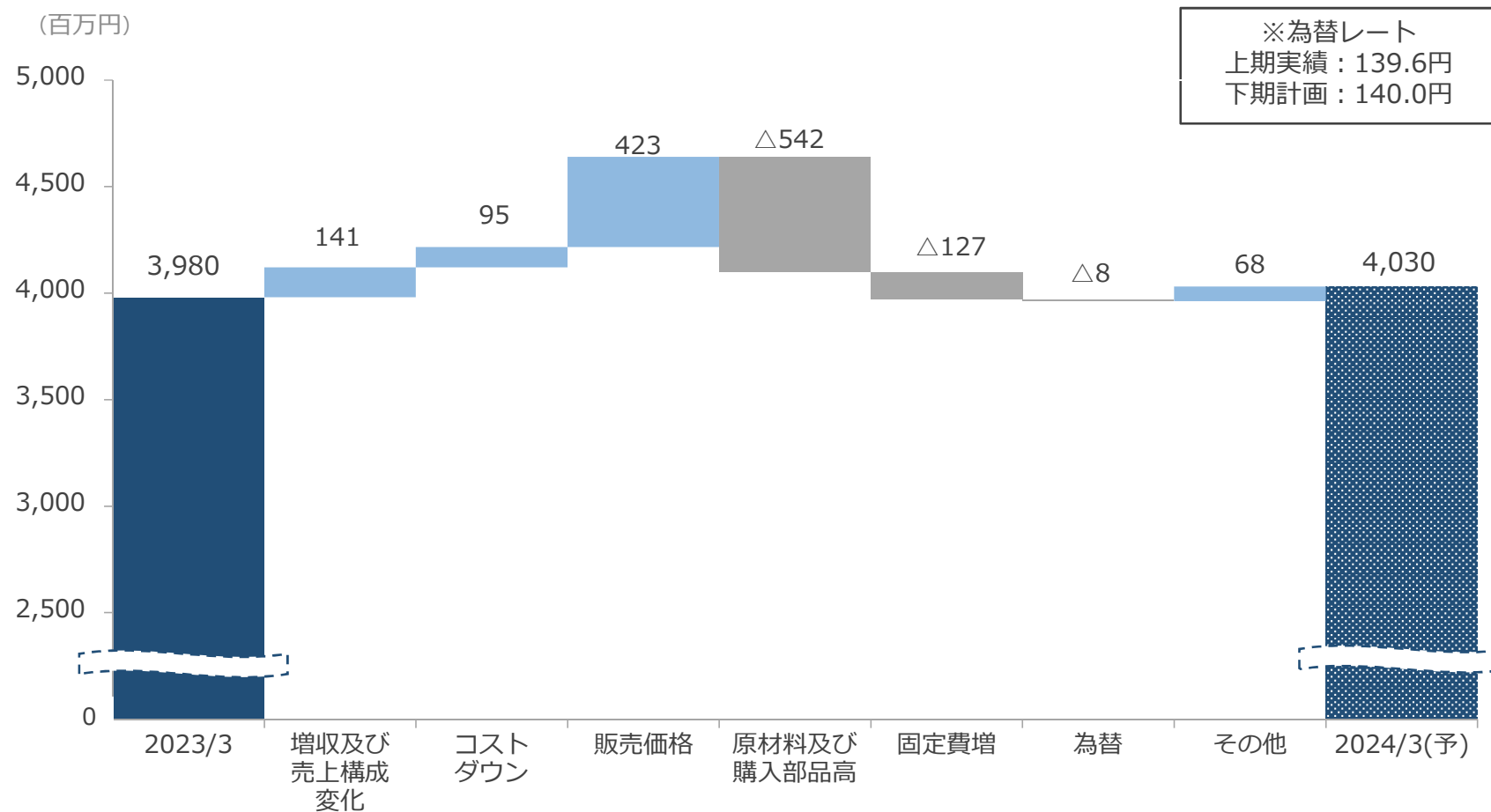
	2023/3	2024/3		
		予想	対前年同期	
			増減	%
国内	45,878	47,097	1,219	2.7%
海外	4,281	4,622	340	7.9%
アジア	2,701	3,125	424	15.7%
欧米	1,580	1,496	△84	△5.3%



3. 2024年3月期業績予想

予想営業利益増減要因分析

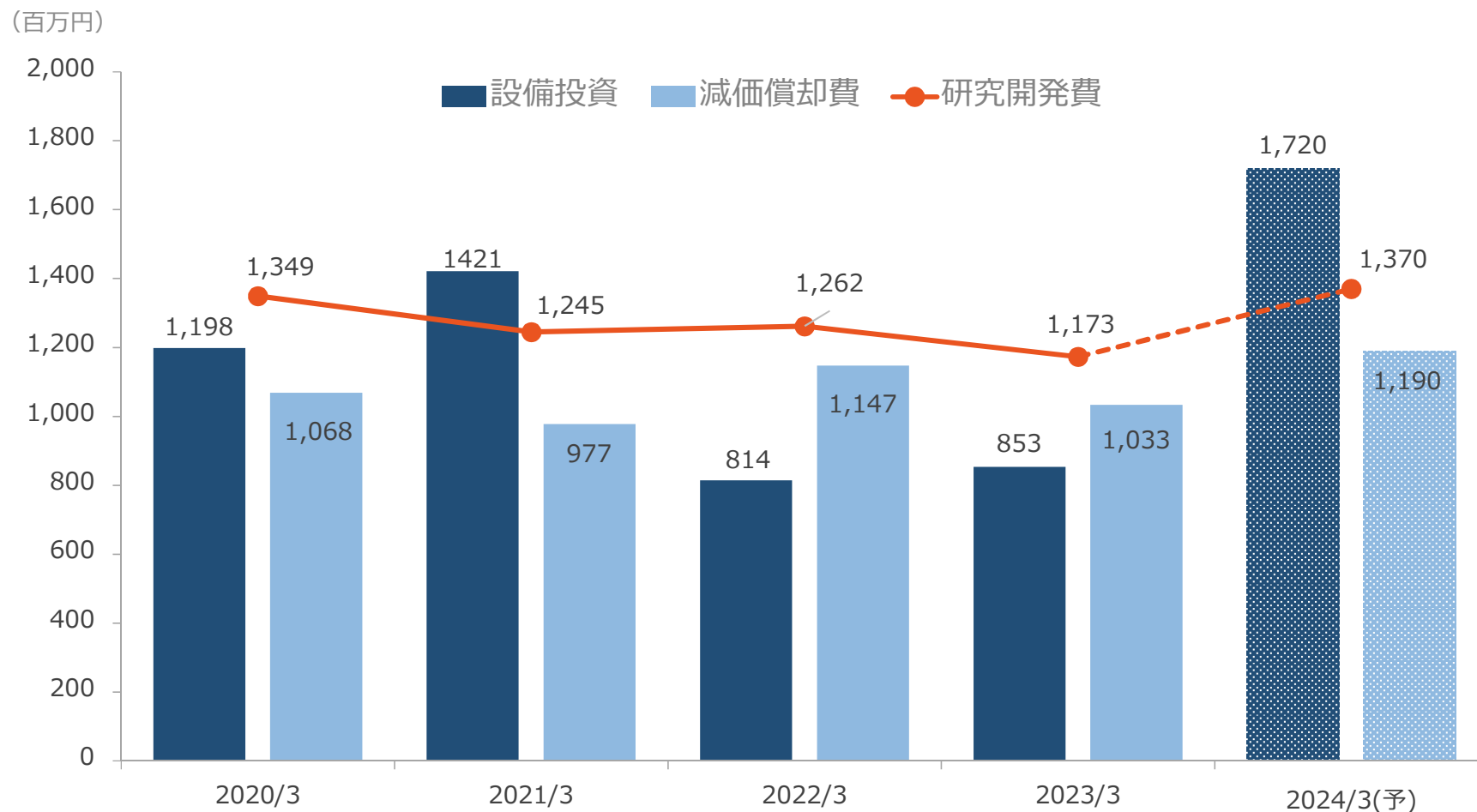
【営業利益増減要因（予想）】



3. 2024年3月期業績予想

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

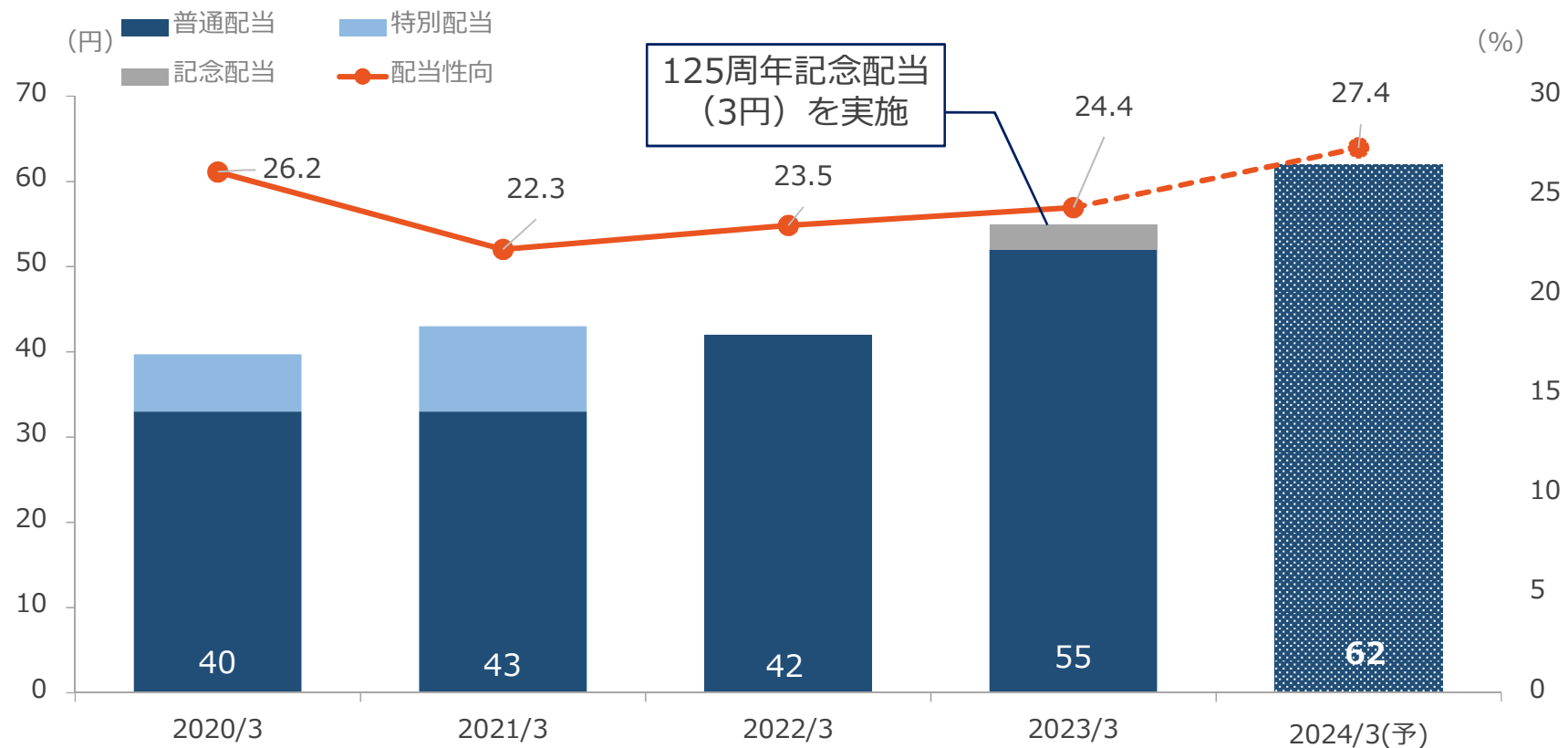
- ◆ 設備投資は「本社工場大規模改修」、スマートメーター・海外市場向け製品の「生産能力増強」などを計画



3. 2024年3月期業績予想

株主還元

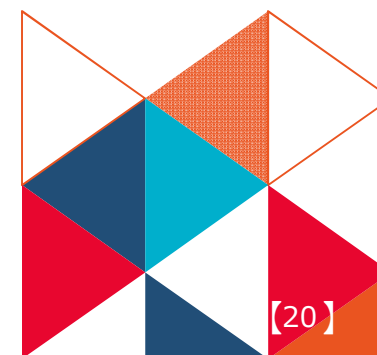
- ◆ 長期的な成長のための財務の安定と投資計画を鑑みながら、業績に応じた株主還元を実施
- ◆ 今回の業績予想修正を踏まえ、年間配当金52円から62円に増配



※2022年2月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。
2022年3月期以前の配当については、株式分割を考慮した数値を記載しております。



4 中期経営計画

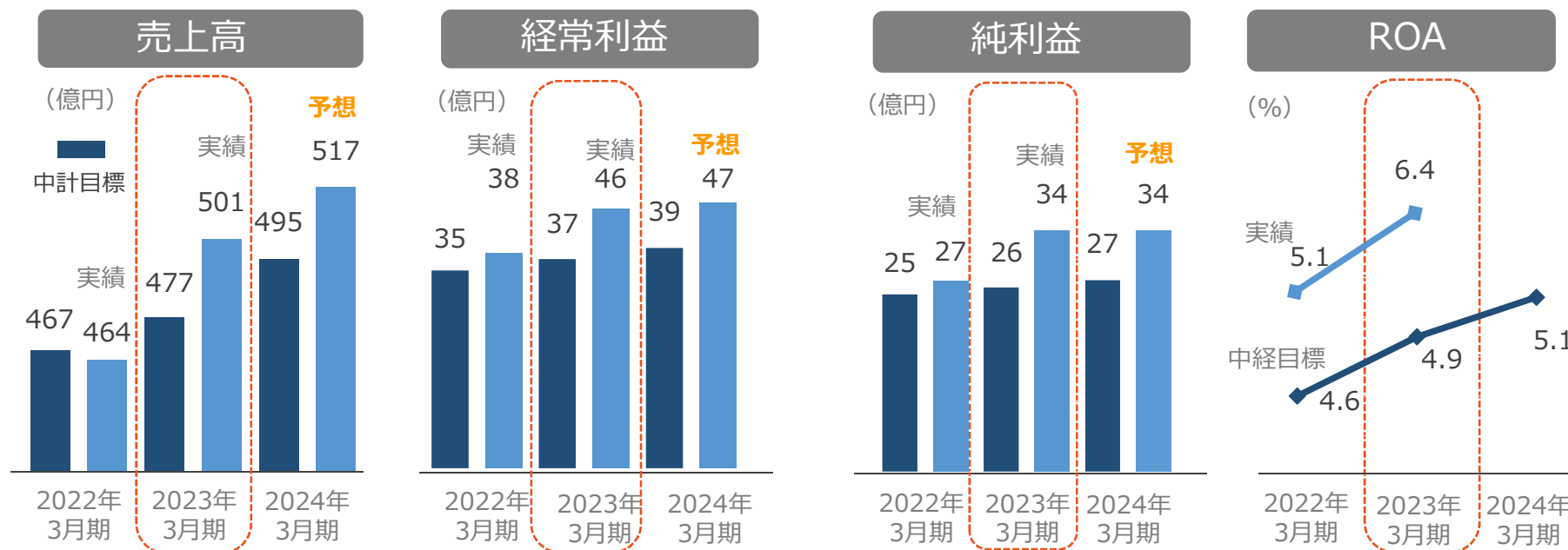


4. 中期経営計画

中期経営計画2023

2023年3月期 売上高、利益ともに計画を達成

- ◆ 重点施策への取組みが進み、売上高・各利益ともに大きく伸長
- ◆ 2024年3月期（最終年度）も増収・増益の予想で計画達成の見込み



4. 中期経営計画

中期経営計画2023

ミッション

- 信頼・創造・奉仕の企業理念のもと、スマート社会に貢献するテクノロジーを磨き、お客様に新しい価値を創造し、提供し続けることで社会に貢献する。

ビジョン

- 「はかる技術」「IoT技術」「ソリューション」をキーワードとしたお客様価値を追求し、新しいシステムやサービスを提供する。
- 海外市場に向けた取り組みは、よりレスポンスを高めて継続し、世界に当社商品・技術を拡げていく。
- 企業活動におけるESG（環境・社会・企業統治）を尊重し、社会に信頼される企業となる。

基本戦略と重点施策

市場の拡大、事業領域拡大へのチャレンジ

商品のスマート化促進とデータ配信サービスの拡大

海外市場向け商品競争力の強化とパートナーとの関係強化

公共施設向けセンサー・システムの販売・施工・メンテナンス力の強化

基盤事業分野の競争力向上と収益向上

価格競争力の向上

お客様満足度の向上

スマートメーターの生産対応

経営力の強化

スタッフ部門の生産性向上

全体最適のグループ経営

企業価値向上

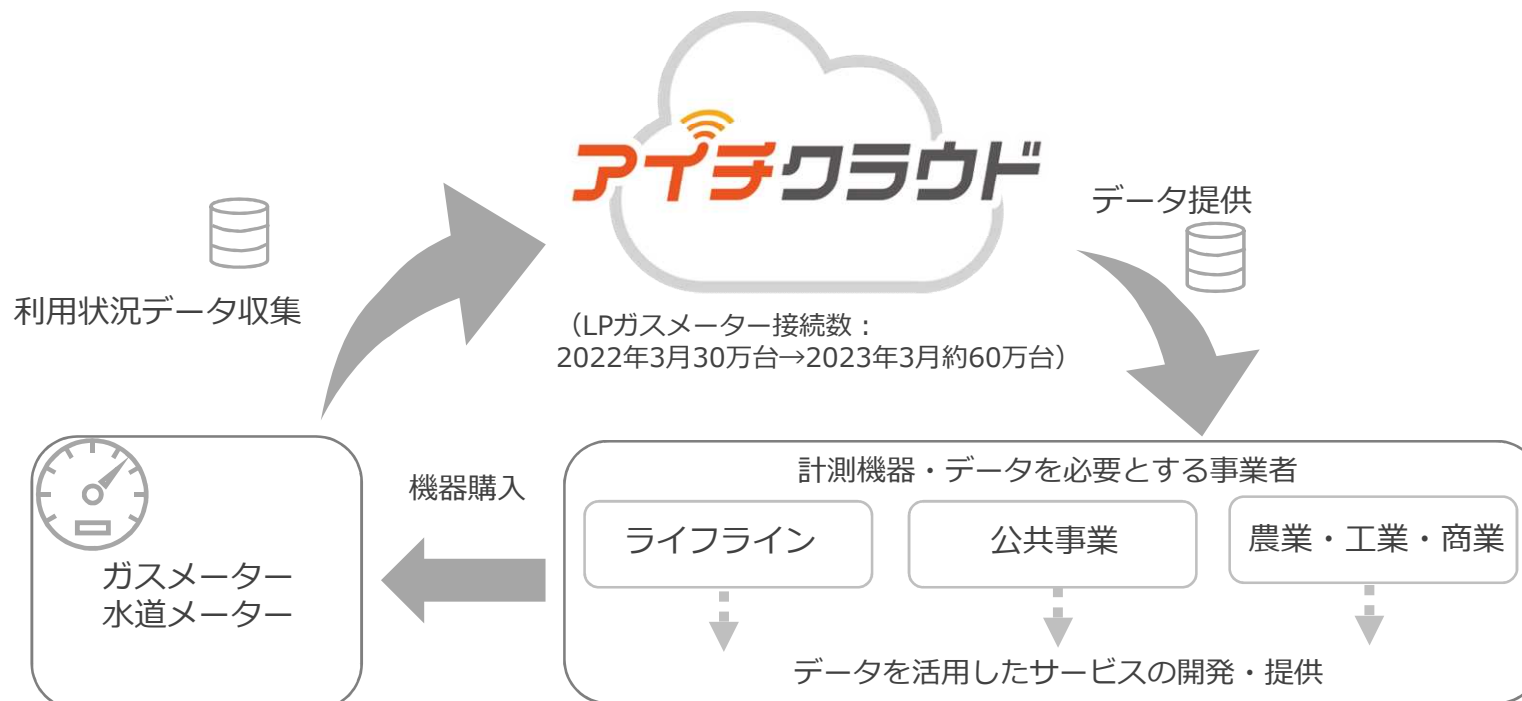
4. 中期経営計画

重点施策①

◆ 商品のスマート化促進とデータ配信サービスの拡大



当社計測機器のスマート化を促進し、収集するデータの提供により顧客の業務効率化・新サービス開発に貢献



4. 中期経営計画

重点施策②

◆ 海外市場向け商品競争力の強化とパートナーとの関係強化

商品の競争力向上による中国・ASEAN向けガスメーター、水道メーターの拡販に加え、販売パートナーとの関係強化によるスマートメーター、流量センサーの販売を拡大

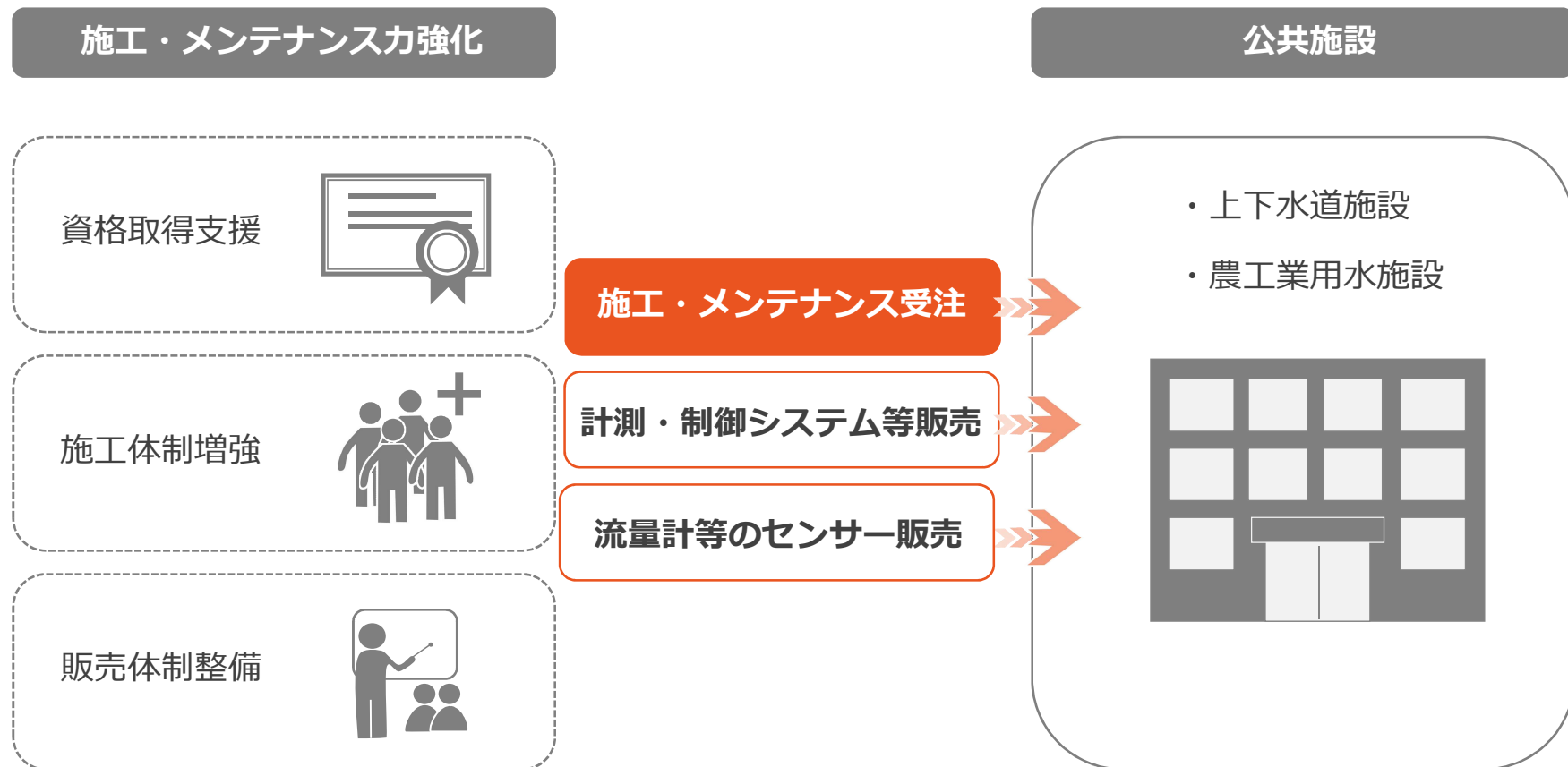


4. 中期経営計画

重点施策③

◆ 公共施設向けセンサー・システムの販売・施工・メンテナンスの強化

公共施設向けに提案力を強化し、流量計等センサーや計測・制御システムの販売を伸長
同時にセンサーやシステムの設置／施設設計・施工・メンテナンス受注を推進し、公共事業での競争力を強化



4. 中期経営計画

進捗状況の評価と課題①

基本戦略	重点施策	評価
市場の拡大 事業領域拡大への チャレンジ	商品のスマート化促進とデータ配信サービスの拡大	○
	海外市場向け商品競争力の強化とパートナーとの関係強化	○
	公共施設向けセンサー・システムの販売・施工・メンテナンス力の強化	○

◆商品のスマート化促進とデータ配信サービスの拡大

データ配信サービス アイチクラウド関連の売上はL Pガス市場を中心に堅調に推移。2024年3月末までに接続メーター数（発売以降の累計）約90万台を目指す。引続き都市ガスおよび水道市場でのさらなる拡大を図る。

◆海外市場向け商品競争力の強化とパートナーとの関係強化

都市ガス分野、水道分野ともに中国市場でのパートナーとの連携が進み順調に拡大。既存顧客のシェアアップに加え、アセアン、中近東などでも拡販を目指す。

◆公共施設向けセンサー・システムの販売・施工・メンテナンス力の強化

施工体制の強化に向けた資格取得の支援ならびに教育の拡充により、比較的大規模な案件にもチャレンジ可能な体制を構築。入札での積算精度や技術提案力のさらなる向上を目指す。

4. 中期経営計画

進捗状況の評価と課題②

基本戦略	重点施策	評価
基盤事業分野の競争 力向上と収益向上	価格競争力の向上	△
	お客さま満足度の向上	△
	スマートメーターの生産対応	○

◆ 価格競争力の向上

水道メーターの小型・軽量化を実現し環境負荷とともに生産コストの低減を実現するも、原材料、エネルギー価格の上昇により収益性への貢献は一部に留まる。引続き製品の改良および生産設備や生産拠点の最適化に取り組む。

◆ お客さま満足度の向上

一部の製品では部品の入手難等の問題により納期へ影響が出るケースもあり。部門間での連携を強化し、QCDを高めることでお客さまとの信頼関係をさらに深める。

◆ スマートメーターの生産対応

都市ガス用スマートメーターは生産設備への投資が計画通り進み、増産体制を構築。今後高まる水道用スマートメーターの需要に向け、生産体制の強化を図る。

4. 中期経営計画

進捗状況の評価と課題③

基本戦略	重点施策	評価
経営力の強化	スタッフ部門の生産性向上	△
	全体最適のグループ経営	○
	企業価値向上	△

◆ スタッフ部門の生産性向上

従業員のモチベーション向上、女性活躍の推進、人材育成を中心に取り組みを強化。健康経営優良法人・くるみん・あいち女性輝きカンパニー等認証取得は進む一方、女性活躍のための社内制度拡充と従業員教育の定着はこれからの課題。

◆ 全体最適のグループ経営

グループ横断的な経営管理手法の共有化・コンプライアンス教育の定着を進めた他、子会社投資計画の進捗管理や事業再構築等を実施することによりグループ力の強化を図った。今後はグループ会社トップの研修機会拡充等によりさらなるガバナンス強化を進める。

◆ 企業価値向上

サステナビリティ委員会の新設など体制の構築を進め、当中期経営計画期間中に株価は約21%上昇。一方で、PBRは未だ低水準であることから、ステークホルダーとの対話促進など市場評価を高めるための施策を推進する。



5 appendix



5. appendix

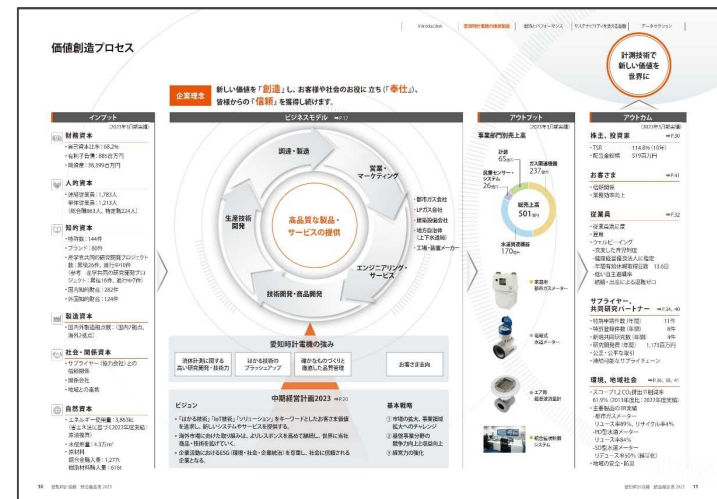
「統合報告書2023」発行について



2023年11月2日、「統合報告書2023」を発行いたしました。

本報告書は、ステークホルダーの皆さまに当社グループの取り組みについてより一層ご理解いただくことを目的として、財務要因と非財務要因を一体的にまとめたものです。価値創造のプロセスや事業、中期経営計画、グループの価値創造の基盤となるESGへの取り組み内容を皆さまに分かりやすくお伝えするよう努めました。

今後も企業価値向上に取り組むとともに、統合報告書をはじめとした積極的な情報開示を通じ、ステークホルダーの皆さまとの対話促進に努めてまいります。



「統合報告書2023」は当社ホームページにてご覧いただけます。

URL : <https://www.aichitokei.co.jp/sustainability/integrated/>

カーボンニュートラルチャレンジ2050

2050年までに脱炭素社会、すなわちカーボンニュートラルの実現を目指します。

【CO2フリー電力の導入】

2022年4月より本社、本社工場及び岡崎工場並びにアイチ木曾岬精工株式会社において、CO2フリー電力の導入を開始しました。

実績：2022年度CO2排出量

2022年度の愛知時計電機グループ全体のCO2排出量は、2013年度比で61.9%削減となり、国が「地球温暖化対策計画」で示す産業部門の2030年度目標（38%削減）を大幅にクリアしています。



カーボンニュートラルチャレンジ2050

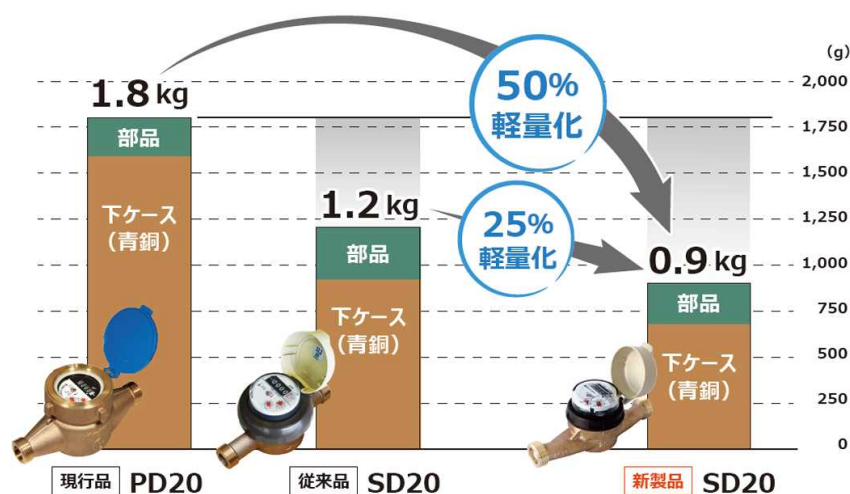
2050年までに脱炭素社会、すなわちカーボンニュートラルの実現を目指します。

【環境にやさしい製品づくり】

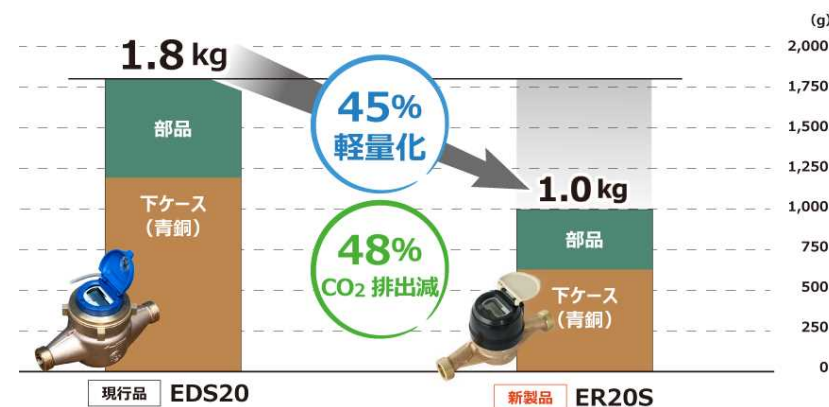
◆水道メーターの軽量化・小型化

家庭用水道メーターは、検定有効期限が8年とされ、全国で年間約750万台が交換されています。

当社では、より環境に配慮した製品を開発するため、水道メーターにおいて材料の使用量や構造を大幅に見直した結果、現行品比で新型高機能乾式水道メーターSDシリーズでは50% (※)、新型電子式水道メーターERシリーズでは45% (※)の軽量化を実現しました。これにより運搬や施工の効率化と製造工程でのCO2低減に貢献します。 ※口径：20ミリ



現行品PD20、従来品SD20と新型SD20Sとの比較 (当社比)



現行品EDS20と新型ER20Sとの比較 (当社比)



〈免責事項〉

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報や合理的であると判断した一定の前提に基づくものであり、様々な要因により実際の業績などが大きく異なる可能性があります。